

天山を過
き廣野に
臨む

「ウオイ
ナン」

と爲すといふ。

午後一時茲に全く天山々中の狹谷を經過し盡したり。唯見る廣漠、海の如き一原野に臨み、光景一變、暑氣頓に襲ひ來りて、日中蔭蔽の地も八十度を示せり。同三分沙爾庫里に着し此地に幕宿す。行程十餘里。附近尙ほ一個の家屋をも認むるに至らず。此地喀喇沙爾を距る二日程。

一一、纏頭の舞踏

二十日の途上、汗王老衛門處の郷約宅に休憩す、此地纏頭農夫十五、六戸あり郷約予一行の爲め急に村内の男女數名を招集し、纏頭の舞踏「ウオイナン」を演じて觀覽せしむ。是より先、護衛の馬守備予に耳語して曰く「ウオイナン」は固より野鄙の舞踊にして、士君子の觀るを慚つる所なれとも、土俗の風習を察するには、亦一見し置かざるべからざる妙味あり。是より天山南路なる所謂「南八城」の地方には、到る處此の舞踊あるも、若し之が觀覽を申込まば、或は恐くは大人の品位に關せん。此地幸に僻遠の小部落なれば、予爲めに郷約に説きて之を一覽に供せん、幸に他日の談柄とせられよと、因て遂に之を觀ることゝ爲れり。